

第4次南小国町総合計画

令和4年度（2022年度）

主要な取組のご紹介



きよらの郷 南小国町

写真提供：南小国町観光協会

「主要な取組のご紹介」について

南小国町では、第4次南小国町総合計画の取組に沿って各種事業を実施していますが、具体的な取組については、なかなかお知りいただく機会がないものと思います。

そこで、今回、共有ビジョンごとの取組について、主要なものをご紹介します。

町がどのような分野で、どのような取組を行っているのか、是非ご覧ください。



目 次



【き】 築いてきた美しい里山の景観、伝統文化、生業を次世代に引き継いでいく里

： P 2 ～

【よ】 寄り添い支え合い、人と人のつながりを大切にし、一人一人が誇りを持ち、多様な生き方を尊重しあえる里

： P 5 ～

【ら】 ライフラインを充実させ、地域全体で協力し、だれもが笑顔で安心して過ごせる里

： P 6 ～

【の】 のびのびと学べる環境の中で、すべての人が夢に向かって挑戦できる里

： P 10 ～

【さ】 再生可能エネルギーを地域資源から生み出し、有効活用し、未来につながる豊かな暮らしを実現する里

： P 13 ～

【と】 共に連携し、世界とつながり、世界に誇れる幸福な暮らしができる里

： P 15 ～

【き】築いてきた美しい里山の景観、伝統文化、生業を次世代に引き継いでいく里
〈施策（１）、施策（２）、施策（３）〉

〈関連SDGs〉



【まちづくり課】

・日本で最も美しい村に関する取組の推進

南小国町は、失ったら二度と取り戻せない日本の農山漁村の景観・文化を守りつつ、最も美しい村としての自立を目指す「日本で最も美しい村連合」に加盟しており、2005年の発足メンバーの1つになります。

「最も美しい村づくり」を推進するため、町独自の取組として「日本で最も美しい村補助金」を実施しており、町民による日本で最も美しい村づくりにつながる活動を支援しています。



「南小国町美化活動及びボランティア啓発」

《令和4年度の実績》

特産品開発1件、視察研修1件、人材育成1件、自然環境保全活動1件に対して補助を実施しました。

・南小国町観光業等の持続的発展に向けた取組

南小国町内における観光の振興及び経済の循環を高めるための取り組みとして、町外にお住いの方向けに、町内の観光施設で利用できるお得な商品券「南小国町「観光」商品券」を販売しています。

《令和4年度の実績や課題》

令和3年度に引き続き、今年度も3,000セット弱を販売し、商品券の売上は30,000千円を超える金額となりました。観光を主とする本町内の経済において大きな効果を与えました。また、コロナ禍の影響を受ける町内の経済においても大きな効果がありました。

・南小国町観光協会と連携した町PRの取組

新規観光客の獲得及びリピーターの創出を行っていくとともに、滞在時間、観光消費を増大させていくため、地域資源を活用した新たな需要の取り込み強化及びソフト・ハード両面での受け入れ環境の整備推進を南小国町観光協会と連携して取り組んでいます。



南小国町観光協会

《令和4年度の実績や課題》

町外の方に向けたバスターミナルでの広告や映像広告など、熊本・福岡を中心としてPR施策を実施し、南小国町の知名度上昇に努めました。

【農林課】

・中山間地域等を支援する取組

農業生産活動の不利な中山間地にて農用地の維持・管理を行う集落等に対し、「中山間地域等直接支払制度交付金」を交付しています。

主に水路、農道の維持管理や鳥獣害対策に係る費用、農用地の管理費用等に活用しています。



集落協定の水路の草切活動

《令和4年度の実績や課題など》

本町では令和2年度から65協定の集落協定や牧野組合等が活動しており、令和4年度の活動としては、農地法面の草刈や水路の泥上げ、野焼き等を行っています。

高齢化や人口減少に伴う農地の維持管理が課題としてありますが、地域の農業生産の維持・発展や地域の活性化のため、今後も本制度の活用を進めていきます。



相談会の様子

・新規就農者を支援するための取組

南小国町内就農者数の増大を目的に、国の「新規就農者育成総合対策事業」を活用し、経営の不安定な就農初期の段階に、資金を交付しています。

また、町で親元就農の補助や、就農研修向けの補助を行っています。

《令和4年度の実績や課題 など》

上記の国の資金を活用した新規就農者が1名、親元就農が1名、役場農林課での就農相談4件中、令和5年度に向けた就農準備者が3名、就農研修開始者が1名となりました。

また、町外への宣伝活動として、役場での相談受付の他、熊本城ホールで開催された「就農相談会」にも参加しました。

令和5年度にも継続して宣伝活動を行い、町内での新規就農者確保に取り組めます。

・ 林業を支援するための取組

南小国町で林業を行う方の事業支援や担い手育成を目的として、「林業機械導入事業補助金」にて、チェーンソーやその他林内作業に用いる機械、または作業の安全を確保するための装具などを購入した際に、これらの経費に対して補助を行っています。



林内作業用機械

《令和4年度の実績や課題など》

令和4年度より補助事業を活用できるよう補助率や補助上限額を引き上げ、チェーンソー5件、林業機械2件、安全装備品2件の補助を行いました。令和5年度には新規林業従事者向けの補助項目新設について検討します。

【よ】 寄り添い支え合い、人と人のつながりを大切にし、一人一人が誇りを持ち、多様な生き方を尊重しあえる里〈施策（10）、施策（11）〉

〈関連SDGs〉



【福祉課】

・結婚・妊娠・出産・子育ての希望を叶える取組

南小国町では、核家族化や地域のつながりの希薄化や、家庭や地域の「子育て力・教育力」の低下等が課題となっている中、安心して子育てができるよう次の支援策に取り組んでいます。

- ①児童の放課後の居場所の確保
- ②子育て世代包括支援センターの設置運営



放課後子ども教室
(中原小)

《令和4年度の実績》

- ①児童の放課後の居場所として、教育委員会所管事業の放課後子ども教室を実施しており、市原小学校と中原小学校の2拠点で週4日教室を開催しています。
- ②子育て世代包括支援センターについては、町民課保健師が相談窓口となる形で令和5年2月に設置を完了しました。相談窓口の充実に向けては専門職員の確保が課題となっており、関係課と協議を継続中です。

・自立支援、健康づくりの推進と生涯現役社会の実現

南小国町では、高齢者の自立支援や要介護状態になることの予防、悪化防止に向け、介護予防をはじめとする高齢者の健康づくりと、それにつながる地域住民の交流機会としての「通いの場」づくりに取り組んでいます。



住民主体の通いの場
(さくら会)

《令和4年度の実績》

コロナ禍による長引く活動自粛により、新たな通いの場の立ち上げができず、13箇所の通いの場も1箇所減となりましたが、健康づくりに対する意識の高まりもあり、要介護認定者数は減少しています。

【ら】ライフラインを充実させ、地域全体で協力し、だれもが笑顔で安心して過ごせる里〈施策（12）、施策（13）、施策（14）、施策（15）、施策（16）、施策（17）〉〈関連SDGs〉



【総務課】

・防災、減災体制の強化

災害等からの町民の生命財産を守るため、町防災計画や国土強靱化計画など、町の防災対応の基本となるべき重要計画の点検、修正を行っています。

また、町全体での防災訓練など、地区防災の中心となるべき自主防災組織の活動活発化を図っています。

《令和4年度の実績や課題など》

「南小国町地域防災計画」を修正しました。

【主な変更箇所】

- ・令和3年度に発生した災害を踏まえた変更
 - ・災害対応における感染症対策の取扱いの変更
 - ・県による洪水浸水想定区域の変更に伴う変更
- 「南小国町国土強靱化計画」を点検しました。

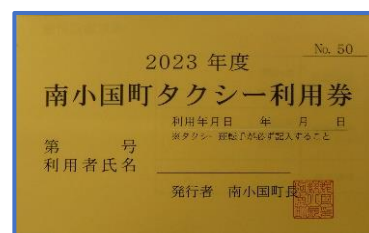


南小国町防災会議

【まちづくり課】

・交通弱者対策の取組①（タクシー利用券の交付）

南小国町では、乗用車の運転免許を持っていない方で「65歳以上の方」または「障害者手帳を持っている方及び介護保険認定者」を対象に、生活に不可欠な買物・通院等のための移動手段を確保するため、対象地域内（南小国町及び小国町大字宮原地内）の移動で小国郷内のタクシーを利用する際に利用可能な「南小国町タクシー利用券」を年間最大 50 枚（申請時期により配布枚数減）交付しております。



タクシー券

《令和4年度の実績や課題など》

384 名の方に交付を行い、延べ約 1 万人の方に助成事業を利用いただきました。

また、利用者アンケートによる満足度調査では、90%以上の方から満足との回答をいただいています。



コミュニティバス「にじバス」

・交通弱者対策の取組②（買い物バスの運行）

南小国町では、小国町との合同事業として平日の買い物や通院などにご利用いただける、両町の中心市街地を走る公共交通（コミュニティバス）、「にじバス」を運行しております。

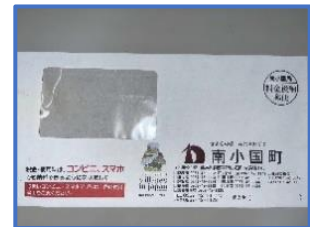
《令和4年度の実績や課題など》

令和4年10月から、利用者の利便性を向上する目的で、時刻表等を大きく変更し、新たに「熊本銀行前」バス停を新設しました。

運行は平日のみで、年間の利用者数が1,674人、月平均は約140人となっています。今後も、運行内容の見直しや、利用促進の取り組みを進めてまいります。

・コンビニ収納システムの導入

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、来庁時の接触機会の減少を目的に、各種税・使用料等のコンビニでの納付書払いを開始しました。併せて、PayPay等のキャッシュレス決済も可能となりました。



コンビニでの支払いも可能となった旨の記載がある封筒

《令和4年度の実績や課題》

コンビニ支払いが可能となることで、来庁する時間が取れない人でも納付書での支払いがしやすくなります。

【町民課・税務課】

・コンビニ交付サービスの導入

令和4年9月よりマイナンバーカードを利用して住民票の写しや印鑑登録証明書、所得証明書が全国のコンビニエンスストア等で取得できるようになりました。

利用可能時間は、午前6時30分から午後11時までで、土日祝日も利用可能です。仕事帰りや休日にも利用できますので、大変便利です。



コンビニでの証明書発行

《令和4年度の実績》

住民票の写し98件、印鑑登録証明書54件、所得（課税）証明書5件、所得証明書4件の交付がありました。

【福祉課】

・医療・介護・福祉の連携による包括的なケアの推進

小国郷においては、地域内の医療機関、歯科医、薬局、介護施設及び行政等の多職種が連携して、小国郷医療福祉あんしんネットワークを組織し、認知症カフェの運営、情報の共有、在宅医療の充実等に取り組んでいます。



エンディングノートの普及・啓発活動

《令和4年度の実績》

コロナ禍の長期化に伴い、認知症カフェの開催回数は制限され、住民フォーラムなど人の集まるイベントの開催はできなかったが、町ケーブルテレビでエンディングノート活用に関する紙しばいを上映し、在宅介護や終末期医療に係る普及を行った。

【建設課】

・町道改良工事の推進

主要事業として、令和6年度の完了を目指し、町道中湯田赤迫線（瓜上矢田原線）の古賀から矢田原集落間の改良（拡幅、一部バイパス）工事を、国庫補助事業（社会資本整備総合交付金）にて取り組んでいます。



工事しゅん工（瓜上矢田原線）

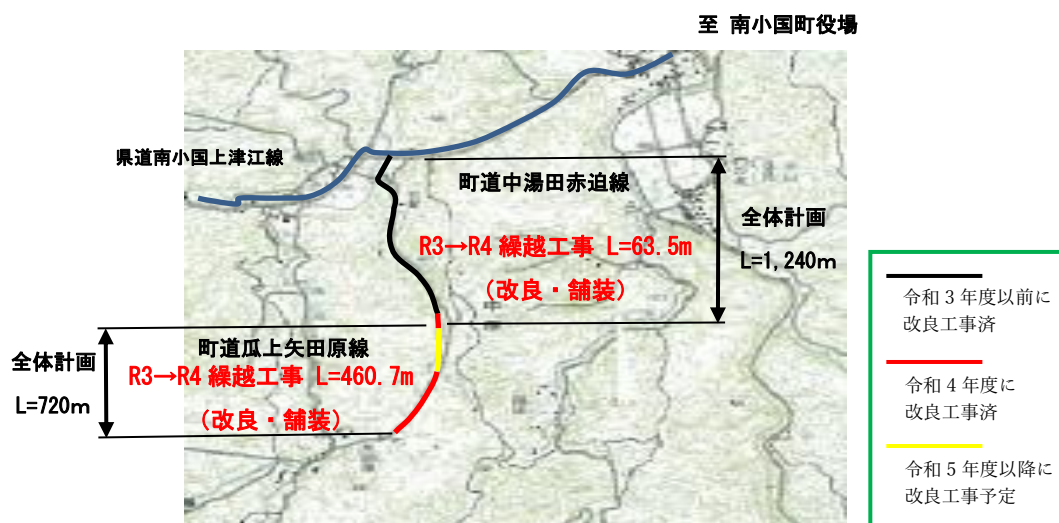
《令和4年度の実績や課題など》

○町道中湯田赤迫線

全体計画 1,240mのうち、令和4年度に 63.5mの改良舗装工事を実施。令和5年度は 66.5mの改良工事を実施し、令和6年度に完了予定。

○町道瓜上矢田原線

全体計画 720mのうち、令和4年度に 460.7mの改良舗装工事を実施。令和5年度は 200mの改良工事を実施し、令和6年度に完了予定。



その他の町道改良工事については、令和５年度に「町道樋ノ口吉ノ本線」を計画しています。

【の】 のびのびと学べる環境の中で、すべての人が夢に向かって挑戦できる里
〈施策（４）、施策（５）〉

〈関連SDGs〉



【教育委員会】

南小国町では子どもたち1人1人がチャレンジする教育を通して、南小国町の未来の創り手となるために必要な資質・能力である4つのC、コミュニケーション、コラボレーション、クリエイティビティ、クリティカル・シンキングの資質能力を重点的に育成していこうと考えています。

その育成の場面として「きよら授業の改善」と「きよら学の推進」の2本柱となり、その一つ「きよら学の推進」では南小国町独自の学習として、地域に目を向け、地域の方々と連携して次のような学習を進めています。

・まちインターン事業（4Cのすべてを育成）

他者と協働し新しい価値を創造する力、めげずにチャレンジする力が大人にも子供にも必要だ、という思いから始まった課題協働型インターンシップ。事業所の皆さんの仕事に対する思い、大事にしている事取材して、「事業所のファンを増やすこと」を目的に、事業所の方々と共に協働・チャレンジする取り組みです。



町内事業所でのインターンシップ

《令和4年度の実績や課題》

中学2年生43名が20事業所において業務を体験。

南小国町プレゼン大会にて、代表者が体験を実績発表しました。



農作物の収穫体験

・農業体験民泊事業（4Cのすべてを育成）

南小国町の基幹産業である農業を通じて地域の人と交流し、体感する中で考え、チャレンジする力、創造力を育むための体験学習プログラムです。

民泊受け入れ農家に2泊3日滞在し、農業や食について学び、考え、南小国の方々の農業に対する思いを共有し、生徒自ら考えた南小国の収穫物を活かしたアイデア料理を農家の方と一緒に作ります。

《令和4年度の実績や課題》

中学1年生19名が8軒の農家にて農業体験。

農業体験を行いながら、生徒たちが考えた料理を試作し、試食会を行いました。レシピ集の作成も行っています。

・集団活動事業（コミュニケーション・コラボレーションを育成）

子供たちに生きる力を育むために、自然や社会の現実に触れる体験が必要であると考えます。そこで、南小国町の里山を見て、体験し、そのすばらしさを味わうことを目的とし「里山自然体験活動事業」に取り組んでいます。南小国町の自然のすばらしさを肌で感じ、自然の中での貴重な体験を通して、南小国町を自慢に思える児童を育成していく事業です。



立岩地区での水源沢登り体験

《令和4年度の実績や課題》

町内の小学4年生26名を対象に活動を実施。

吉原ごんべい村での地域探検五感ゲームや、立岩地区での水源沢登り等を行いました。

コロナ過もあり、アウトドアクッキングは中止しました。

【まちづくり課】

・地域おこし協力隊の活躍

地域外の人材を招聘し、地域ブランドや地域製品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、地域への定住・定着を図るため、平成26年度から「行政型地域おこし協力隊」を導入しました。

令和2年度からは、自身の起こす事業を磨き、地域とつながりながら発展させていくことを目的とする「起業型地域おこし協力隊」を導入しており、現在様々な活動を行っています。



起業型地域おこし協力隊員

《令和4年度の実績や課題など》

令和2年度から活動を行った起業型地域おこし協力隊員2名の隊員はそれぞれ「黒川温泉入湯手形の技術継承の仕組みづくりを活用した森林資源の活用」及び「南小国町有機・小規模農業のIoT化」に取組み、3年間の任期が終了しました。

令和4年4月に委嘱した3名の起業型地域おこし協力隊員についても、小国杉とデジタルファブリケーションを活用したものづくりや町内事業所の新分野進出・事業拡大への参画などの活動を行いました。

なお、令和5年4月からは新たに3名を起業型として委嘱しており、それぞれの分野で活動いただいています。



町内への移住者による
「美容室開業」事業

・町民の新たなチャレンジへの支援

南小国町では、町民や、町内に移住されてくる方が主体となり行う、起業や地域活性化を目的とした様々な分野の活動に対し、町独自による「夢チャレンジ推進事業補助金」を実施し、個人によって飲食店や美容室、カフェなどを開業したり、農家民泊を始めるための許可関係を取ったりと、個人の「夢」の実現に向けた挑戦を支援しています。

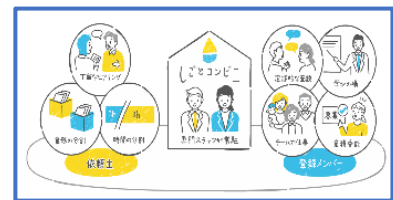
《令和4年度の実績や課題など》

5件の申請があり、全ての事業が年度内に完了した。

・町内事業者の働き手不足の解消及び短時間でも働ける仕事の確保に関する取組み

町内事業者の人材不足に対応するため、事業者の業務を見直し、短時間でも働ける仕事として切り分けるとともに、町内外の短時間であれば働ける人材を掘り起こし、地域の労働力の総量を増大させるための事業を、株式会社SMO南小国と連携して実施しています。

令和4年度からは、業務委託型短時間ワークシェアリング事業「しごとコンビニ®」を導入し、町内関係者向けの説明会やニーズ調査、町内でのトライアルを行い、本格的な導入を図ります。



しごとコンビニロゴ

《令和4年度の実績や課題など》

町内事業者とのトライアル事業などを実施するとともに、推進体制の構築や、活用できる取組の調査などを行いました。また、しごとコンビニで活用されているデータバンクを本町向けに改良した「地域越境人材データバンク」は関係人口や地域越境人材の広がりや定義づけについて考察を深め、次年度の本格稼働に向けて体制づくりを進めました。

【さ】再生可能エネルギーを地域資源から生み出し、有効活用し、未来につながる豊かな暮らしを実現する里〈施策（18）、施策（19）、施策（20）〉

〈関連SDGs〉



【町民課】

・省エネルギーに関する取組

子どもデイサービス（社会福祉協議会主催）の利用者を対象に、環境問題について考えるエコ教室を実施しています。「もったいない」という意識を持つことをテーマとして、食べ残し等による大量の食品ロス問題について、食品ロスによるごみの処理に多額の税金が使われていることについての授業を行いました。



小学生向けエコ教室

《令和4年度の実績》

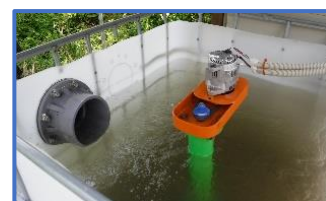
令和5年3月、子どもデイサービスの利用者20数名を対象に、食品ロスに関する動画の視聴やクイズ等による学習を行いました。また、この省エネルギーに関する広報掲載やホームページの変更を行い、ゴミの分別・リサイクル・二酸化炭素排出量削減の取組について周知を行いました。

【まちづくり課】

・太陽光発電など再生可能エネルギー普及への取組

町内への中小水力発電の実施可能性を検討するため、令和3年度から「マイクロ水力発電施設導入実証事業」を実施しています。

また、町内における再生可能エネルギーの導入及び自立分散型電源の確保を促進することを目的に、令和3年度から太陽光発電設備等導入促進事業補助金の交付も実施しています。



マイクロ水力発電装置



太陽光発電設備

《令和4年度の実績や課題など》

マイクロ水力発電施設導入実証事業では、町内の自治会や事業所を対象に募集を行い、令和4年度に応募のあった事業所に対して、水力発電に係る調査や機器類設置等への支援を行いました。

太陽光発電設備等導入促進事業補助金では申請のあった6件に対して補助を実施しました。

【農林課】

・木質バイオマスの活用の推進

南小国町ではペレットストーブなどの木質バイオマスを推進し、二酸化炭素の排出を抑え、エネルギーの地産地消を目指すために、「ペレットストーブ等購入補助事業」により、木質ペレットストーブや薪ストーブを購入する際に、これらの経費に対して補助を行っています。



木質ペレットストーブ

《令和4年度の実績や課題など》

薪ストーブ1件、木質ペレットストーブ3件の購入に対して補助を行いました。令和5年度には環境省の地域脱炭素実現に向けた再エネの最大限導入のための計画づくり支援事業を活用し、木質バイオマスエネルギーなどを活用した2050年までのゼロカーボン実現に向けての具体的な計画を策定します。

【と】共に連携し、世界とつながり、世界に誇れる幸福な暮らしができる里
 〈施策（６）、施策（７）、施策（８）、施策（９）〉

〈関連SDGs〉



【まちづくり課】

・移住定住に係る取組みの推進

少子高齢化による人口減少や、担い手不足を解消していくために、南小国町に移住してくる方を増やしていく取組みを行っています。町内にある空き家を、町外から移住される方への住居としてマッチングさせる「空き家バンク」の運用や移住定住コーディネーターによる移住前後での相談体制の構築を進めています。



移住定住コーディネーターによる移住希望者と空き家所有者のマッチング

《令和４年度の実績や課題など》

空き家バンク（移住）相談件数 40 件 空き家バンク新規登録件数 6 件
 移住相談や空き家バンクへの問い合わせの件数に対して、一般住宅として紹介できる物件数が少ないため、物件の掘り起こしが課題としてあります。また、町が空き家を改修し、移住者等に貸し出す事業の実施に向けて現在取り組んでいます。空き家は、月日が経つ毎に状況が劣化していきますので、早めに相談いただきたいです。



南小国町暮らし応援券

・地域経済の活性化等に向けた取組

南小国町内における町民の生活支援や経済循環を高めるための取組みとして、町内にお住いの方向けに各種商品券の販売等を行います。

《令和４年度の実績や課題など》

飲食店や宿泊施設での飲食に使用できる「南小国町倍返し飲食券」及び町内の商工会加盟店で使用できる「南小国町プレミアム付き商品券」を販売しました。
 また長期化する新型コロナウイルス感染症の影響や原油価格・物価高騰により、打撃を受けている地域経済と町民の生活を支援するため、全町民を対象に登録事業所で利用できる「南小国町暮らし応援券」を２回配布しました。

・町外への情報発信や町体験事業等の実施

株式会社SMO南小国と連携し、国内外へ南小国町の情報を効果的に発信することで、本町への観光需要を喚起し、観光客から選ばれる町となるための取組みを推進しています。また、同じくSMO南小国と連携し、南小国町に関心がある若者などに町に滞在し、町を体験してもらう「ワーキングバケーション」や、南小国町での起業を志す方を支援する「起業塾」を実施しています。



YouTubeでの観光プロモーション

そのほか、南小国町観光協会と連携し、熊本や福岡の都市圏など、町外でのPR活動を行っています。

《令和4年度の実績や課題など》

You tube 動画（かじマックスチャンネル）を9本作成したほか、プロモーションツアーの造成などを行いました。また、「ワーキングバケーション」に9名、「起業塾」へは9名の参加があり、3名の移住に繋がりました。

また、観光協会では、ホームページを多言語化対応にリニューアルを行いました。その他、南小国町の特色を活かした内容の電子雑誌、冊子（紙媒体）、動画を作成し、全国的に南小国町の知名度を上げ、観光入込客数の回復を図り、地域経済の活性化につなげました。

・外国人労働者等の定着や担い手化への取組

株式会社SMO南小国と連携し、町内に在住・在勤する外国人のコミュニティづくりなどを支援することで、外国人労働者の本町への定着及び本町の外国人受入れの基盤の強化を図ります。

《令和4年度の実績や課題など》

前年度のオンラインでの交流会ではあまり会話が弾まず、集まりも芳しくなかったことを踏まえ、本年度は観光地への遠足や習字体験などの交流会を7回実施しました。また、外国人を雇用している地域事業者向けのオンライン日本語プログラムを協働で実施し、外国人受入セミナーを2回行いました。

また、こうした取組を海外に積極的にPRしていくためにSNSでのライブ配信等も行いました。

【建設課】

・民間賃貸住宅確保プロジェクトの推進

移住定住の促進に係る取組みの一つとして、民間賃貸住宅の供給不足解消のため、住宅（2戸以上）を建設する個人及び法人（町内に住所を有する個人、町内に事業所を有する法人に限る）に対し、1戸あたり100万円を上限として、建設費の一部を補助しています。



補助を受け建設された賃貸住宅

《令和４年度の実績や課題など》

申請が１件あり、戸数２戸に対し２,０００千円の補助を行いました。